

村川基金によるカリフォルニア工科大学滞在
工学部電子物質科学科 田中康隆

表題の機会を与えていただいた村川基金に感謝します。2015年3月23日月曜日の昼過ぎ、場所はコロラド州デンバーのコロラドコンベンションセンター。いつもの様にプログラムなど見ていなかったわたしは、何十年ぶりかの同窓会の会場に入っていく時の勇気と、少し逃げたいような恥ずかしさと一緒に301号室へ入った。「一体誰が来ているのだろう」。目立たないように後方の席を探しているときに、最初に声をかけてくれたのは、中国人のFangwei,「私のこと覚えてる？」, って忘れるわけじゃないじゃない。隣には韓国人のMi-Hee. 彼女らの笑顔見た瞬間に恥ずかしさはどっかに消えて、9年前まだみんなスリムだった頃の表情が会場の中にあふれていることにやっと気づいた。EddieもMarisaもAmieもValerieもAlonもJoeyも二人いたEricもみんないる。パサデナの太陽の中でのソフトボールトーナメントをぼんやり思い出していた。空はやっぱり青かったのだろうと思う(図1)。



図1 2006年夏のカリフォルニア工科大学ソフトボールトーナメントの際の集合写真。



図2 2015年 Priestley Medal 授賞式。

アメリカ化学会でも最高の荣誉と言われる「Priestley Medal」の2015年の受賞者はJackie BARTONだ(図2)。それを記念して彼女のシンポジウムが第249回アメリカ化学会の中に設けられた。弟子たち30名が招待講演者として登壇する。30分も講演時間をもらえる。生物化学者の彼女の弟子の演題には「DNA」, 「Protein」, 「Peptide」などの文字が並んでいる。わたし一人を除いて(図3)。2006年の半年に満たない滞在だったのに、「おまえは強烈だった。1年半いたんだだけ？」の様なことをみんなが言う。ほめ言葉だ。ソフトボールで平気で頭から突っ込んでボールを取りに行っていたから強烈だったのだと思う。有機化学のわたしが、生物化学の研究室に在籍することは結構大変なことである。初日から自動合成装置でDNAを作ったりしていた。当時の技術が何か今役に立っているかと言われたら、多分あまり役に立っていない。生体分子の独特の反応を覚えられたくらいである。思い出することは、毎日みんなと一緒に行った昼ごはん、たまにやるパーティー、ソフトバ

ールトーナメントくらいである。でも実験室には毎日一番早く行って、とにかく、その日の実験を始めることを日課とした。

Section B
Colorado Convention Center
Room 301
**2015 Priestley Medalist: Symposium
in Honor of Jacqueline K. Barton**
E. Boon, M. C. Buzzee, S. Delaney, V. C. Pierre,
Organizers
A. K. Boal, Presiding
1:30 INOR 516. Targeting mitochondrial DNA.
S.O. Kelley
2:00 INOR 517. Novel development of electro-
lytes in lithium ion battery. Y. Tanaka
2:30 INOR 518. Peptide nucleic acids (PNAs)
as diagnostic and therapeutic molecules.
E. Yavin
3:00 Intermission.
3:10 INOR 519. Controlling molecular display
and cell behavior with nanocrystals.
C.J. Murphy
3:40 INOR 520. Sensitive and selective real-
time electrochemical monitoring of DNA
repair. J. Slinker, M. McWilliams, F. Anka,
K.J. Bakus
4:10 INOR 521. Evolution of an idea born
in my postdoc with Jackie Barton: From
rhodium-peptide conjugates to Alzheimer's
disease. R.P. Houser

図3 2015年第249回
アメリカ化学会の
プログラムの一部。



図4 2015年3月23日月曜日の午後9時頃、
Jackie BARTON での受賞記念ディナーの際の
集合写真（）。

夕方はディナーである（図4）。会場からほど近い「Hotel Monaco」の地下にあるレストラン「Paris Ballroom」で開催された。いつも兄貴分であった Eddie はいまでも兄貴で、2人しかいないテーブルをさらに大きくなった体で隣のテーブルとくっつけて大テーブルを作った。Eddie は Eddie だった。Anne PETITJEAN とは全く重なりがない。彼女はわたしのポスドク先のストラスブールの Jean-Marie LEHN の研究室を出て、Jackie BARTON のところでポスドクをしていた。「Jacline から Yasu のことは聞いてたわ。わたしら従兄弟ね」。ここでいう Jacline は Jackie BARTON ではなく Jean-Marie LEHN の研究室の秘書 Jacline CLAUDON のことである。Anne とは3月にデンバー（米国）、6月はオタワ（カナダ）、7月はストラスブール（フランス）で会うことになる。

これを書いているのはモントリオールのホテルの部屋。6月20日土曜日午後3時ごろ。岩田先生と約束した締切はとうに過ぎてしまっている。今年度前期はほんとうに時間がない。新学科の初めての3年生の学生実験立ち上げをサポートする立場だが、有機合成ができる人は事実上一人しかいない。苦勞している担当の先生やTAさんと予備実験、本番の学生実験と格闘した。ほんとうに格闘した。実験が終わったらグッタリしてしまい原稿を書けなかった。2015年の1月に静岡大学情報学部工学部のSSSV（short visit and short stay）の制度を使ってモントリオール大学にお邪魔した（図5, 6）。ホストプロフェッサーはストラスブールからの友人Garry HANANである。うちの研究室の学生さんの発表を聞いて、「カナダ化学会で喋ってよ」と依頼を受けた（図7）。その後のモントリオールでのポストシンポジウ

ムでも講演の時間をもらった（図8）。大変ありがたい話である。1月に来た時は、わたしのモントリオール大学のゲストハウスへの予約が悪く、狭い部屋に男子学生2人が寝泊まりせねばならない状況になりかけた。Garryは「いつものようにYasuがうちに泊まって、

	Japan-Canada Symposium: Energy Production and Storage sponsored by Shizuoka University and the Université de Montréal	
Schedule January 26th, 2015		
9h00 – 12h00	Visit of the Université de Montréal and the Pavillon Joseph Armand Bombardier (PJAB)	
12h00 – 13h55	Lunch with students	
13h55	PJAB 1035, Opening remarks	
14h00 – 14h20	Mickaël Dollé, "Ceramic Batteries"	
14h20 – 14h40	Thomas Auvray, "Polyoxometalates as electron reservoirs for the design of new and efficient light harvesting devices."	
14h40 – 15h00	Miho Hatazaki, "Design, Synthesis, and Electrochemical Properties of Polysubstituted Nitriles Compound as Novel Electrolyte Solvent possessing High Oxidation Potential,"	
15h00 – 15h20	Takuya Hosokawa, "A Candidate Electrolyte Solvent based on Cyclopentane-cis-1,3-dicarbonitrile with High Oxidation Potential,"	
15h20 – 15h40	Dominic Rochefort, "Electroactive ionic liquids electrolytes for lithium-ion batteries"	
15h40 – 16h00	Coffee and Tea Break	
16h00 – 16h20	Jacqueline Figueiredo Da Silva, "Inclusion of photoactive guests in a crystalline sponge."	
16h20 – 16h40	Yuki Yamauchi, "Cyclic Borate as Electrolyte Additives for Long-Term Stability of Lithium Ion Batteries,"	
16h40 – 17h00	Shohei Sano, "To Clarify Corrosiveness of Gasoline-Ethanol Blends,"	
17h00 – 17h20	Majid Talebi, "Heading to low-cost battery materials"	
17h20 – 17h40	Olivier Schott, "Photocatalytic Hydrogen production"	
17h40 – 18h00	Valentyn Skrypnik, "Polypyrrole-Gold based Nanomaterials with Electroactivity"	
18h00	Concluding remarks and reception in PJAB 3005	

図5 2015年1月26日月曜日に開いてもらったシンポジウムのプログラム。静岡大学学生はSSSVの制度で参加。

INS	105
Inorganic and Supramolecular Chemistry in Energy and Materials Applications	
Organizer(s) - G. Hanan	
Chair(s) - G. Hanan	
14:00	00909 Energy Transfer in Donor-acceptor Dyads Built upon a Triazine Core ^{Langlois A, Gros CP, Harvey PD}
14:20	00910 Probing Quantitatively the Supramolecular Associations of Oil Additive Materials as a Function of Temperature by Pyrene Excimer Fluorescence ^{Pirouz S, Duhamel J}
14:40	00911 Super Extended Tetraphthalene: Synthesis, Optoelectronic Properties and Fullerene Complexation Study ^{Morin JF, Giguère JS}
15:00	00912 Photofunctional Conjugated Molecules and Materials ^{Wolf MQ}
15:20	00913 Photoinduced Hydrogen-atom Transfer and Proton-coupled Electron Transfer with Ru(II) and Re(I) Sensitizers: Exploring Fundamental Steps of Light-to-Chemical Energy Conversion ^{Wenger OS}
16:00	Coffee Break
16:20	00914 Supramolecular Chemistry in Electrolyte of Lithium-ion Batteries ^{Hatazaki M, Tanaka Y}
17:00	00915 Three-dimensional Carbon on Nickel Foam as Anode Material for Lithium-ion Batteries ^{Saunier M, Schougaard SB}
17:20	00916 Mimicking Mineral Weathering and Neogenesis as an Environmentally-friendly Method for Metal Separation and MOF Synthesis ^{Huskie I, Fréchet T}
17:40	End of Session
INS	208

図7 2015年第98回カナダ化学会のプログラムの一部。



図6 2015年1月24日土曜日、The Montmorency Fallsにて。

New Advances in Energy Production and Storage

18th and 19th June 2015,
Pavillon J. A. Bombardier,
5155 Chemin de la Rampe,
Montréal (QC) H3T 2B1

Thur 15h-16h40 / Fri : 8h30-16h45
Conferences in PJAB 1035
by invited foreign and local speakers

18th June 16h45-18h45
Poster session (by the students)
in the PJAB ATRIUM
3 poster prizes



WILEY
Dalton
Transactions

BRUKER

For information or registration, contact : garry.hanan@umontreal.ca
thomas.auvray@umontreal.ca

Université
de Montréal

Invited speakers

Ken Sakai
Kyushu University

Yasutaka Tanaka
Shizuoka University

Geneviève Sauvé
Case Western University

Will Skene
Université de Montréal

Clara Santato
Polytechnique Montréal

Pierre-Louis Brunner
SolarisChem Inc

Dominic Rochefort
Université de Montréal

Mickaël Dollé
Université de Montréal

Shawn Collins
Université de Montréal

Fabio Cicoira
Polytechnique Montréal

Michel Côté
Université de Montréal

Eli Zysman-Colman
St Andrews University

図8 2015年第98回カナダ化学会のポストシンポジウムのポスター。

学生に部屋を空ければいいじゃない」と一言。部屋問題は解決してしまった。オタワでのカナダ化学会の際は、Garry, George (カルガリー大学教授), わたしの3名で同室である。基本的にカナダ人は質素で穴の空いた靴下なんかを平気で履いている。学会で出張する時

も二人一部屋，三人一部屋にして宿代を節約する．このため毎晩ビールを飲みながら遅くまで騒いだり話し込んだりすることになる（図 9）．



図 9 2015 年 6 月 14 日日曜日，オタワの「Les Suites Hotel」の 906 号室の午前 2 時頃．

ポスドク先でも村川基金をいただいてカリフォルニア工科大学に滞在させていただいた際も，もちろん今までなかった知識を得ることは大変大切であると思う．一番残っているのは人とのつながり．これが現在を支えてくれている．英語ネイティブな人々数名にわたしが混じって会話していても，わたしがネイティブではない日本人と気づく人はほとんどいないと思う．ポスドクと村川基金のおかげで問題なくなった．いまはカナダに来たら夢はその日から英語になる．フランスに行ったら 2,3 日で夢はフランス語になる．友達と語学と海外の文化を知るだけでも海外に長期滞在する意味はあると思う．特に日本はヨーロッパからも北アメリカからも遠い．オセアニアも遠い．地理的に孤立しているからこそ，チャンスを生かしてこちらから出て行くのがいいのである．昨日ポストシンポジウムが終了して，本日夜中に空港に向かい帰途につく．その前に Garry 一家と彼の甥と姪とともに食事することになっている．甥と姪は，われわれがストラスブールで騒いでいた時は赤ん坊だったはずだ．そろそろホテルを出ないと間に合わない．